



## ● 建設業界の労災防止に向けた活動は？

### 建設業労働災害防止協会 錢高 一善会長

建設業界は労働災害による死傷者をゼロにするため、不斷の努力を続けてきた。取り組みの先導役を果たしてきたのが建設業労働災害防止協会(建災防)だ。労働災害防止に向けた活動を錢高一善会長に聞いた。

#### ◇――労働災害の現状は。

「建災防が設立された1964年と比較すると、現在は8分の1程度にまで減少したが、この54年間で約6万人の方が亡くなつた。さらに、労働災害による障害で、残りの人生を施設で送っている方々もいらっしゃる。その方の人生、ご家族の悲しみを思うと心が痛む。17年の死亡災害は、前年比9・9%増の323人となつた。大変憂慮すべき状況だ。多発した自然災害からの復旧・復興工事などにより、仕事量の増加が見込まれている一方、地方間で建設投資の格差が生じている。現場技術者や技能労働者の不足、未熟練労働者の増加、高齢化の進展により、労働災害増加の懸念がますます高まつていて」

# 富よりも健康を 働く人を被害者にしない チームプレーと連携が重要

ていうことうとい自主的な活動を体系的に進めることが必要だ。建災防は、建設業に特化した『建設業労働安全管理マネジメントシステム(コスモス)』の普及に努めてきた。導入企業では事業場の労働災害が減少している。さらに、ISO 5001を包括し、メンタルヘルス対策も取り入れた『ニューコスモス』の認定を10月に開始した。メンタルヘルスに対しては、建災防独自の健康KY(危険予知)や無記名ストレスチェックを導入するための研修を全国で展開中だ

#### ――曰指す将来像は。

「労働災害が発生し、作業員が犠牲になることはあってはならない。だからこそ、『安全』は、建設産業に欠かせない要素であると同時に、継承されていくべきノウハウだ。建設産業の真の発展は、労働災害を起こさず、働く人が犠牲となることのない職場を作り上げることから始まる。今後の建災防の使命は、建設業で働く人たちの安全衛生の確保のみならず、健康保持まで役割が広がっていくだろう。富よりも健康という発想に基づき、建設業の人たち、さらにその家族の皆さんのが幸せいのために、これからも建設業全体を視野に入れて、災害ゼロに向けて、地道に一步一步確実に労働災害防止対策を進めしていく」。

――災害を減らすために視し、発生数を減らしていきたい

「安全衛生水準を向上し